

発達障害ってなに？

(神経発達症)

発達障害とは、生まれつきの脳機能の発達の偏りが原因で、コミュニケーション力や学習能力、注意力などに特性が生じた状態のことをいいます。

発達障害のある子供は、人とのコミュニケーションが苦手なことが多いため、「わがまま、変わった人」などと誤解されがちですが、本人の努力が足りなかったり、親のしつけに問題があるわけではありません。

家族や社会全体が発達障害についての理解を深めて適切な支援を行うことで、特性がある子もそれほど困難を感じることなく生活できるようになります。

*保護者の方にとって理解しやすい表現を優先し、発達障害の特性の名称は必ずしも国際的な診断基準に沿っていない場合があります。

発達障害の特徴

外見からでは
わかりづらい



症状の程度にもよりますが一見普通に見えるため、周囲からは「怠け」や「反抗期」と見なされ、発達障害であることに気づくのが遅くなることがあります。

境界線が
明確ではない



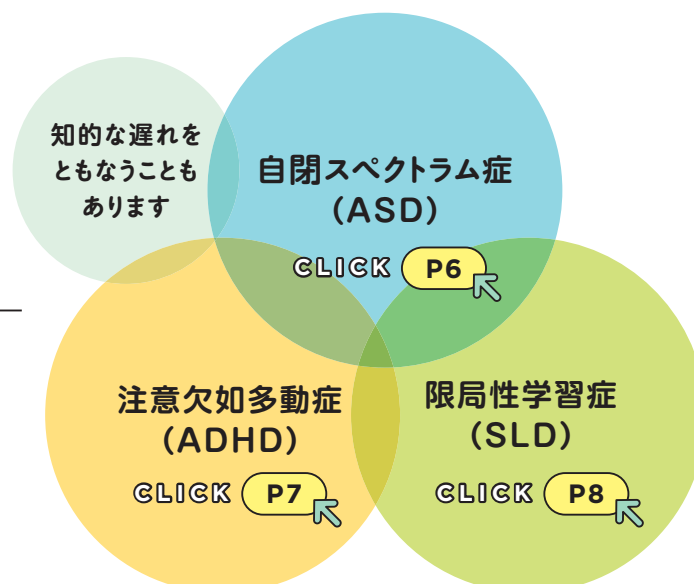
発達障害の特性の現れ方には濃淡があるため、軽度の場合は、人と違った特性があることに本人も気づかないまま成長することがあります。

発達障害の多くは
重複している



現れる特性によって発達障害は数種類に分類されますが、複数の特性が重複して現れるケースが多いため、一人ひとりに合った支援が必要となります。

主な発達障害の
特性と重なり



*このほか、発達性協調運動症、チック症、小児期発症流暢症、発達性言語症なども発達障害に含まれます。

自閉スペクトラム症 (ASD)

幼少期の主な特徴

視線が合いづらい

笑いかけへの
反応が出にくい

人の動作を
真似ることが少ない



こだわりが強い

大きい音や
明るい光が苦手

言葉の発達がゆっくり

など

コミュニケーションが苦手、パターン化した行動へのこだわりが強い、
などが自閉スペクトラム症によく見られる特徴です。

人の気持ちを察するのがあまり得意ではありませんが、
興味のあることには人一倍熱心に取り組むといった特徴も見られます。

HINT

子育てのヒント

自閉スペクトラム症の特徴のひとつに「こだわり行動」があります。食事や服装、通学路などに自分なりのこだわりを持っていて、それを注意されると強く抵抗します。これは感覚過敏による刺激の強さから身を守るための防衛反応で、彼らの変化を嫌ってパターン化した行動を好むのは刺激を避けて安心を得るためなのです。

予定を変更する際は事前に伝える

お出かけや、園の行事などのスケジュールを変更するときはいきなりではなく、事前に余裕を持って伝えてあげましょう。

説明するときは絵や写真を活用する

自閉スペクトラム症の子供は、言葉よりも視覚的な情報のほうが理解しやすい傾向があります。なにかを説明する際は写真や絵を使ってあげましょう。

保護者の方たちに聞きました 「こだわり行動」を和らげるために工夫したことは？

- ▶ 「①お着替え」など、やることを①②③と順番をつけて伝えと、そのとおりに行動できました。
- ▶ 食べたいものなど、お気に入りのものが家になくときは、事前に「これは今日ないからね」と言うとな納得してくれました。

注意欠如多動症 (ADHD)

幼少期の主な特徴

体を動かし続ける
ことが多い

気になることに
意識が向きやすい

興味の対象が
次々に変わる



忘れ物が多い

順番やルールを
守ることが苦手

会話の際、話が
脱線することが多い

など

ひとつのことに集中したり、

じっとしていることが苦手といった特徴が現われやすいのが注意欠如多動症です。

忘れ物が多いなどの困りごとが目立ちますが、好奇心と行動力があるので、
困っている人を誰よりも早く見つけて助けてあげる——といったプラスの行動も見られます。

HINT

子育てのヒント

注意欠如多動症の子供をもった親は「どうしてじっとしてられないの!」とついつい感情的になって叱ってしまいがちです。しかし叱られてばかりだと子供は自信や意欲を失ってしまいます。注意欠如多動症の子の場合は、叱るよりも上手に褒めることが問題行動を減らす近道だと思っておいってください。

目標を与えて達成したら褒める

子供に目標を与え、それをクリアしたときは「がんばったね」と褒めてあげてください。子供は「次も褒められたい」という気持ちになり、家庭での約束ごとを大切にできるようになります。

ごほうびを与える

注意欠如多動症の子供は、目の前のうれしいことに飛びつきやすい傾向があります。苦手なことに取り組ませるにはごほうびを与えてモチベーションを高めるという方法も有効です。

保護者の方たちに聞きました

スムーズな行動を促すために工夫した「ルール」は?

- ▶ 学校に持って行くものを1か所にまとめて、朝はそこから持って行くようにしました。
- ▶ 毎日の「やることリスト」を見える所に貼って、タイマーも使うとゲーム感覚で自分から動ける場面が増えました。

限局性学習症 (SLD)

幼少期の主な特徴

読字障害・書字障害▼

文字にあまり興味を示さない

指で押さえながら文字を読む

形の似ている文字の
区別がつきにくい

鏡文字（裏返しの文字）を
書いてしまう



算数障害▼

数を順番に
かぞえることが苦手

見たものを数に
置き換えるのが苦手

文章から計算方法を
読み取ることが苦手

など

限局性学習症とは知的発達に遅れはないのに、文字を書く、読む、
数をかぞえる、計算する、推論するといった特定の学習分野だけが苦手な状態のことです。
子供に必要な以上の苦手意識を抱かせないためにも、親が早めに特性に気づき、
支援教材を活用しながらサポートしてあげることが大切です。

HINT

子育てのヒント

今ではパソコンの音声入力や計算機能などを活用すれば、文字や数字が苦手でもそれほど支障を感じずに生活することができます。苦手をなくすよりも得意な分野を伸ばしてあげてことを心がけてください。

CLICK

LIFT～一人ひとりに合わせた 学び方の選択肢
端末で広がる読み書き支援（東京都教育委員会）

得意分野に目を向ける

才能のあるなしに関わらず、まずは子供が興味を持って取り組めそうなものを探しましょう。得意なことがひとつでも見つければそれは自信につながります。

子供のせいにしない

限局性学習症の子供は「なぜみんなと同じことができないのだろう」と苦しんでいます。そんな子に「もっとがんばれ」は禁句。特性を理解し認めてあげることで子供は安心します。

保護者の方たちに聞きました

ご家庭で工夫してよかった「学習方法」は？

- ▶ 無理に読み書きを練習させるのではなく、絵本や遊びを通して楽しく文字に触れさせていました。
- ▶ 理解しやすい方法を探しながら、タブレットやパソコンも使って学習を進めていました。

発達障害の特性 代表例 ④

発達性協調運動症（DCD）

ボール遊びが極端に苦手だったり、知的な遅れがないのに足と手、目と手など複数の体の部位を一緒に動かそうとするとどこちなくなるのが、発達性協調運動症に見られる特徴です。運動が不得意でも生活に支障はありませんが、まれに劣等感を抱いて不登校になってしまうケースもあるので注意が必要です。



HINT

子育てのヒント

「運動が苦手＝格好悪いこと」と認識すると自己肯定感が低下してしまいます。早めにトレーニングをスタートし、基礎運動の反復練習を行いながら、ボール遊びなどのコツをつかめば、必要以上に苦手意識を感じることはなくなります。無理にやらせるのではなく、楽しみながらできる環境を整えてあげてください。

発達障害の特性 代表例 ⑤

チック症（トゥレット症）

激しくまばたきを繰り返す、首を振る、肩をすくめる、咳払いや舌打ちをする、奇声を発するといった一時的なチック症状は、多くの子供にみられるものです。しかし、複数のチック症状が1年以上続く場合は、トゥレット症が疑われます。トゥレット症は4～6歳頃に発症し、10～15歳頃にピークを迎え、大人になると改善することが多いとされています。



HINT

子育てのヒント

チックの症状を自分の意思でコントロールするのは難しく、当事者である子供自身が一番苦しんでいます。親は叱ったり無理に抑えようとせずに、理解者として子供に寄り添ってあげてください。友達のあいだで孤立させないように、保育園・幼稚園や小学校の先生に理解・協力を仰ぐ姿勢も大切です。

発達障害の特性 代表例 ⑥

小児期発症流暢症（吃音）

小児期発症流暢症とは、同じ音を何度も繰り返したり、音を引き延ばしたり、言葉に詰まってなかなか話し出せなかったりと、言葉がスムーズに出てこない状態を指します。2～5歳の頃に発症し、そのうちの約8割は小学校低学年までに自然に治りますが、長引く場合は専門家によるサポートが必要となります。



HINT

子育てのヒント

「焦らないで、ゆっくり話してごらん」といったアドバイスは、子供を萎縮させて逆効果になることがあります。伝えたいという本人の気持ちを尊重し、最後まで話を聞いてあげることで子供は安心します。就学後は、先生やまわりの友達に吃音の症状について理解してもらい、「どう接してほしいか」を伝えておくことで子供の精神的な負担が減らせます。

発達障害の特性 代表例 ⑦

発達性言語症（DLD）

知的に遅れがないのに言語能力の発達がゆっくりなのが発達性言語症です。具体的には、たとえ話や冗談が理解しにくかったり、会話のキャッチボールが苦手だったりといった特徴が現れます。発達性言語症には、言葉の意味を理解できている「表出性言語障害」と、言葉の意味自体が理解できていない「受容性言語障害」の2種類があり、前者は就学までに改善されることがほとんどです。しかし後者の場合は約6割が小学校に入ってから遅れが続くことがあるため支援が必要となります。



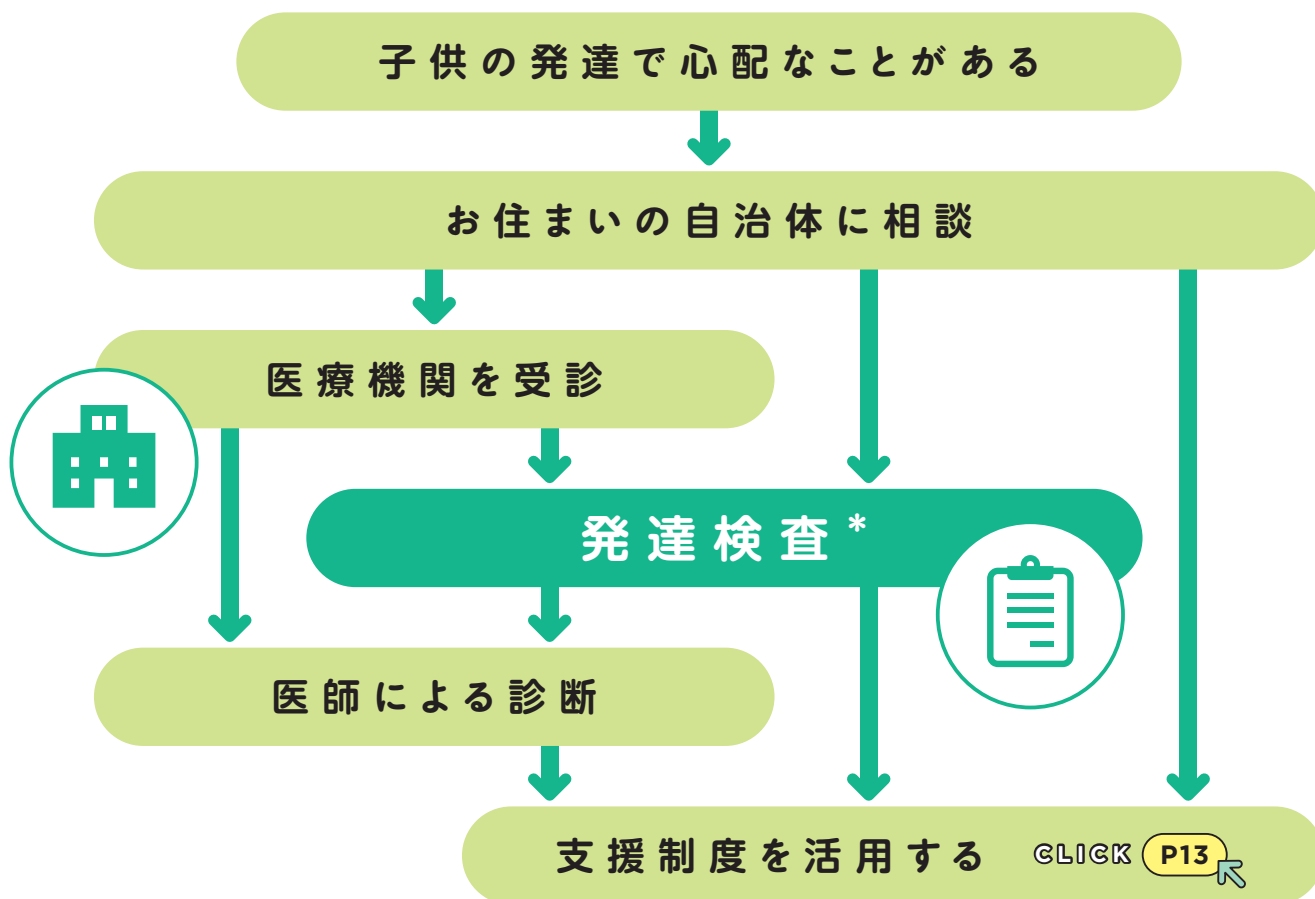
HINT

子育てのヒント

表出性言語障害の子供は、言いたいことがあって口に出して伝えようと思っているのに言葉がなかなか思い浮かびません。聞いているほうはもどかしくなって「こういうことだよ」と先回りして代弁したくなりますが、なるべく代弁せずに本人の話すのを待ってあげてください。そうやっていると徐々に自分の考えを言語化できるようになっていきます。

お子さんの発達が 気になったら

子供の発達状況に不安を感じている方は、児童発達支援センター、保健センターなどに相談し、必要に応じて「発達検査」を受けてみましょう。必ずしも検査を受ける必要はありませんが、子供が今、どれくらいの発達段階にあるのか？人よりも発達がゆっくりなのはどの部分なのか？ということが検査を通してわかってきます。

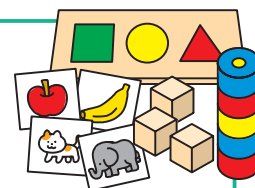


* 発達検査とは

子供の心身の発達状況を、言語、運動、社会性など、さまざまな面から調べる検査が発達検査です。この検査は本来、子供の発達状態を正しく把握し、適切な支援につなげることを目的に行われるもので、発達検査の結果だけで発達障害であると診断されることはありません。

検査の種類
(一例)

新版K式発達検査2020 ▶ (対象:1歳6か月～4歳11か月) 運動・認知・言語・社会面からお子さんの発達年齢を算出
WISC-V知能検査 ▶ (対象:5歳0か月～16歳11か月) 知能の発達の指標のひとつとしてお子さんの精神年齢を算出



発達障害の
早期発見と
適切な支援に
つなげる

アセスメントツール

発達検査以外では、アセスメントツール（発達を評価するための質問集）を使って子供の発達状況を調べることも可能です。簡単な質問に答えていくうちに、子供が何が苦手で何が得意なのか、どう子供と接するべきなのか、さらには今後どんな支援が必要なのかが見えてきます。

お子さんの
得意・苦手が
わかりやすくなる

日常でのお子さんとの
接し方のヒントが
もらえる

お子さんの状態に
適した支援先に
つながりやすくなる

アセスメントツールにはさまざまなものがありますが、
ここでは厚生労働省がアセスメントツールの一例として挙げている3種類の評価ツールをご紹介します。

M-CHAT

対象:16 ～ 30か月の幼児

子供のようすや行動に関するさまざまな質問事項に、保護者が、はい、いいえで記入するタイプの評価ツール。子供の社会性の発達状況や、自閉スペクトラム症の可能性を調べる際に使われます。ただし、保護者のセルフチェックだけで判断するのは危険。正しい評価・判断には医師や専門家のチェックが必要となります。

CLICK

アセスメントツール (M-CHAT) について
(発達障害ナビポータル)



PARS-TR

対象:3歳以上

M-CHATと同じく、自閉スペクトラム症の可能性を調べるための評価ツールで、公認心理師などの専門家が保護者に面接し、子供の乳幼児期から現在に至るまでのようすについての聞き取り調査を行います。

CLASP

対象:5 ～ 6歳

幼稚園や保育園の先生などが質問紙に記入するスタイルの評価ツール。就学前には見つけにくい発達障害（限局性学習症・発達性協調運動症・チック症・小児期発症流暢症）の可能性を調べる際に使われます。